

地域包括ケアシステム維持のための ICT の活用に関する研究会（第 4 回）議事概要

1 日 時 令和 5 年 5 月 31 日（水） 14:00～15:15

2 場 所 東北厚生局 16 階会議室

3 出席者

（構成員）

藤田構成員（座長）、大坂構成員、佃構成員

（事務局）

井原局長、鈴木健康福祉部長、宮澤地域包括的支援構築施策分析官、
佐藤地域包括ケア推進課長

4 議事概要

事務局より資料 1 に基づき、I C T 活用の課題とその解決策について説明。その後、
質疑、意見交換が行われた。

〔主な意見〕

（I C T 活用の基本的な考え方に関するもの）

○ I C T を利用して手続きの簡略化を図るだけでなく、I C T の利用により高齢者
（当事者）や家族等のニーズに沿ったサービス等が行われるよう考える必要がある。

○ I C T 導入することにより、サービス等の利用者である高齢者の要介護度等の軽減
につながるものでなければならない。

○ 申請手続き等の I C T 化が安易なアセスメントを招き、介護保険の乱用を助長する
ようなことが懸念される。

（I C T 活用の課題及びその解決策に関するもの）

< マネジメント人材の育成に関するもの >

○ マネジメント人材の育成に関する課題の解決策として、ガイドライン作成が掲げら
れているが、往々にして作成自体が目標となってしまうので、具体的な方法をイメ
ージできる記載としてはどうか。

○ マネジメント人材の育成に関する課題の解決策として、人材育成のための研修が掲
げられているが、新たに I C T のための研修を行うのではなく、既存のあらゆる階層・
場面での研修の中に盛り込んで実施していかないと普及啓発には時間がかかってし
まう。

○ 地域や組織の中に今いる人材をどう育成し、どのようにマネジメントしていくかが
重要である。

< I C T に関する情報の普及、情報格差に関するもの >

- エンドユーザーとそれを支援する人たち（施設のスタッフ等）がICTを活用しやすい仕組みをどう作っていくかが重要である。
 - ICTの活用に関して、家族だけでなく、高齢者と普段付き合う人たちの知識向上も必要である。
 - 解決策に実際の実績事例を記載してはどうか。
 - 参考資料集の資料9に記載されているICTの活用場面については、もう少しハードルを下げた事例も必要ではないか。
- <既存技術の活用に関するもの>
- 既存技術活用に関する課題の解決策は人材育成のみではなく、身近にある技術の活用方法を情報提供することではないか。

以上